

INFINITY

DANCING TRANSFORMATION

構成・演出

草刈民代 インタビュー

きっかけは、1本の動画。

今年1月。東京・渋谷のオーチャードホールで、「INFINITY」と題されたダンス公演が行われた。2度目の緊急事態宣言下という事もあり、劇場も席を空けて着席せざるを得ない状況だったが、それでも生の舞台、そしてダンサー達の躍動する肉体を渴望する人々の熱気が客席から湧き上がっていた。

この日、舞台上立ったのはバレエ、コンテンポラリー、タップダンス、舞踏といった様々なダンスで自己表現を試みるダンサー達。それも我が国を代表するダンサーであり、かつ振付家だ。そんな彼らが、1部はそれぞれのフィールドのダンスを、そして2部ではこれまで滅多に見ることがなかった様々なスタイルのダンサー達がコラボレーションした作品を披露してくれた。

この公演、きっかけは新型コロナ感染症によって社会全体が停滞していた昨年5月にYouTubeにアップされた1つの動画だった。動画の発案者は草刈民代。日本を代表するバレエダンサーから10年ほど前に女優へ転身。今ではテレビドラマやミュージカルなどの舞台で活躍している。そんな草刈が中心となった動画「#Chainof8 Dancers creation during corona times in Japan」は、フィリップ・グラスの音楽(演奏: オフリス・ギター・カルテット)をバックに、草刈をはじめとして中村恵恵、上野水香、菅原小春、熊谷和徳、辻本知彦、平原慎太郎、鷹赤兒という8人のダン

サー達が、それぞれの部屋やベランダなどにスマートフォンやカメラを置き、まるで表現のリレーのように踊り継いでいくものだ。ダンスに詳しい人ならこのラインナップを見ただけで心震えることだろう(まだ見ていない人は是非ご覧頂きたい)。

この動画を作ったきっかけを、草刈はこう語っている。「自粛期間中にネット上にアップロードされているダンス関連の動画を色々見ていたんです。その中で多いのは自分の踊りを収録したもので、ダンサーの表現ではなく、役者さんや歌手、スポーツ選手の踊り。ダンサーの『踊り』では無いんです。私が踊っていた頃からダンサーを取り巻く状況がかなり変わってきたことに気づき、もしかしたら『踊り』の表現がなくなってしまうのでは、という危機感を覚えました。でも人々が魅せられる踊りを創っている人たちは明らかにいるんです。そこで彼らの存在をアピールしたいという気持ちが生まれたんです」

そうした気持ちをまずコンテンポラリーダンサーの平原慎太郎に話したという。「平原君に話したら『やれることならやりたいです』と。そして『草刈さんが言い出せばみんなやりますよ』とも言ってくれました。でもバレエだけでは訴求力に欠ける気がして、ダンス全体で捉えた方が良くと考え、彼と相談してメンバーを決めていきました」4分ほどの動画で踊るメンバーはこうして集められた。

「菅原小春さんは前から注目していて、彼女のようなストリートダンス系の表現力は特別ですね。辻本君も彼がまだ若い頃にローラン・ブティの作品を牧阿佐美バレエ団で踊ったことがあって知っていたんです。タップの熊谷さんには私が声をかけましたが、彼がものすごく良いダンサーだと知っていたのは平原君でした。私はダンサーを引退してからはあまり色々な踊りを観ていなかったもので、平原君から聞くまで知らなかった。でもYouTubeにあった動画を見たから凄かったので連絡を取りました」

外出がかなわず活動ができない中で、思いがけずあぶり出された現実。それに突き動かされるように、草刈と7人のダンサー達は動画の中で躍動した。部屋やベランダといった充分とは言えない空間は、動き出した瞬間、オーラのように溢れる表現で埋め尽くされたのだった。

動画の話題は口コミで拡がり、あちらこちらで高い評価が聞こえるようになった。その動きを受けるようにして冒頭で紹介したオーチャードホールでの公演へとつながっていくのだった。「YouTubeで発表後3週間くらい経ってから、動画をもとに公演しませんかという話がありました。動画を作った時点では、公演なんて考えもしていなかったんです」

公演は、動画とはメンバーが一部変更になったものの、次々に登場するダンサー達は、様々なスタイルで、しかも全身全霊を込めた表現で観客を圧倒した。

1本の動画をきっかけに生まれた
これまでに無いダンス作品。

ジャンルを超越したダンサーたちが出会い創る。



撮影：新井秀幸

草刈民代：Tamiyo Kusakari

73年小林紀子バレエアカデミーにてバレエを始め、78年橋バレエ学校入学。81年から牧阿佐美バレエ団に参加。87年「白鳥の湖」オデット・オディールの初役を務め、以降バレエ団の主要バレリーナとして活躍。レニングラード国立バレエには97年から09年までゲストアーティストとして日本国内や本拠地(サンクトペテルブルク・ロシア)で多くの公演を共にする。09年4月「Esprit～ローラン・ブティの世界」をプロデュース。国内11都市、14公演を行いバレリーナとしての幕を閉じる。2021年1月INFINITY公演にて約12年ぶりに本格的なダンス公演に出演、構成・演出も務める。



撮影：新井秀幸

さらにパワーアップして、オーバード・ホールへ。

そんな公演が今年開館25周年を迎えるオーバード・ホールにやってくる。「INFINITY DANCING TRANSFORMATION」と題された富山公演だが、実は東京公演をそのまま持ってくるわけではなく、出演者や演出に変更が加わり、節目の記念にふさわしいものとなる。たとえば昨今のダンス界で一番の注目株として知られ、テレビ番組やCMにも登場している菅原小春。ドイツやハンガリーのバレエ団で踊り、帰国後はKバレエカンパニーのゲスト・プリンシパルとして活躍、ダンスマガジン誌のダンサー・ベストテンにおいて3年連続で1位に輝く中村祥子が参加する。草刈自身も注目の振付家・ダンサーである森優貴の振付による作品を初演するという。そういった意味で大きな期待が持てる。

「森さんには新たな振付をお願いして、それを二人で踊る予定です。東京公演ではなかった顔ぶれがオーバード・ホールで実現します」

オーバード・ホールでは、2006年レニングラード国立バレエ(現、ミハイロフスキー劇場バレエ)公演のゲストとして踊ったことがあるという草刈。富山は美味しいものが多く、それも楽しみだという彼女に、富山の観客に向けてのメッセージを訊いてみた。

「バレエと舞踏のダンサーが、同じ曲と一緒に踊るといのは今までに無かったと好評を頂きました。それぞれのダンサーも、しっかり自分たちの世界観を表現しつつ、全員の力が集まって質の高い作品をご覧頂ける富山公演になることを私達も楽しみにしています」

渡部晋也(ライター&舞台写真家)

出演



ぜひ、動画もご覧ください!

公演情報

開館25周年特別記念公演

INFINITY DANCING TRANSFORMATION

◆日時：2021年7月4日(日) 15:00開演

◆会場：オーバード・ホール

◆チケット：[全席指定・税込]

S席：8,000円 A席：6,000円 B席：4,000円 U-25：2,000円

※U-25：鑑賞時25歳以下対象。公演当日の空席よりお席をご用意します。※未就学児入場不可。

◆チケット発売日：アスネット会員先行：4月18日(日)のみ
一般発売：4月25日(日)～

◆プレイガイド：アスネットカウンター

★チケットのお求めはPI「チケット購入方法」をご覧ください。

※やむを得ない理由により、出演者等変更の可能性がございます。予めご了承ください。

※新型コロナウイルス感染対策を徹底して上演します。ご来場前にはオーバード・ホール公式HP

で最新情報をご確認ください。

